

一 共産主義者同盟政治綱領は二十九年次のことを見定めた。各級
機関はただちに、以下の方針のもとに、党内問題に決着
をつけよう。

第三回大会脱走者に対する基本的態度と今後の闘争について

才の回大会を脱走した田代水一、三浦金一、
つて脱走した新政治部指導部は、この回大会
二日目を脱走した者も、大会水一、三浦金一を先
行的に脱退した態度を指導部に対する基本的
態度として定めておく必要がある。
一、同盟員であつて、この回大会才二日目に
脱退し、自分も才二日目を脱走した者につい
ては、今後には水一、三浦金一に同する自己批判を
要求する。七回大会を脱走したものに同する
同盟員として責任は、推して金一、三浦金一に負
けなければならないが、一部、同的意識の欠けた
主義指導部、場下の指導部であつて大会参加が
現実には不可能になつた同盟員は、批判を以

て、今後には水一、三浦金一に同する自己批判を
要求する。七回大会を脱走したものに同する
同盟員として責任は、推して金一、三浦金一に負
けなければならないが、一部、同的意識の欠けた
主義指導部、場下の指導部であつて大会参加が
現実には不可能になつた同盟員は、批判を以
て、今後には水一、三浦金一に同する自己批判を
要求する。七回大会を脱走したものに同する
同盟員として責任は、推して金一、三浦金一に負
けなければならないが、一部、同的意識の欠けた
主義指導部、場下の指導部であつて大会参加が
現実には不可能になつた同盟員は、批判を以

(1)

一、才七回大会以降の同盟統一強化のための闘いの現状に關する報告

才七回大会、全同盟の通常の中枢たる政治局会議において、大衆議決定の生きた階級斗争への具体化に努めるとともに、大衆ボイコット者に対する原則的態度を明らかにし、一部水沢一派の政治的組織的崩壊の方向を提議して来た。(当面する政治方針については「敵陣」35、36第一面参照。ボイコット者に対する原則的態度、史實については「ボイコット」及び「敵陣」I参照、中央及び幹の機関任務と党任配置に關しては「ボイコット」2、面参照)。

こゝで大衆才二日誌をボイコットした同盟員の現状について報告し、全同盟の統一強化の闘いへの結束をもとめたい。

① 水沢一派はもっぱら「ボイコット」主流派として自己保身のためにデマを打ってボイコット派を組織した故に、ボイコットに否流した同盟員は、何故何のために、いかなる確たる展望を以て大衆ボイコットという重大な行動を敢てするがについていかなる革命的確信をもちえなかつた。水沢一派の小心な陰謀的官僚的大衆操作主義にまどづく同盟員分

口ウケ、その減退と野天を自ら悔いたのである。水沢は、われわれが大会の二日目、當日午後六時半まで(すなわち大会を最後限果しうるギリギリの時限)を拒否した。そして大衆ボイコットのしつこくしたつを清まそうというみにくい態度で悔まうとした。だからこそ、大衆盟日又別の憲法連絡において、自己批判を求められるや、シヨックをうけて瓦解したのである。水沢は取引の場として大会を考へ、取引の道具として大衆ボイコットの位置づけていたこと(4)

② 現存、水沢、北野、赤松、藤井、杉村、狭山、早川らは誰れも中であり、幾時活動の諸條件を一切継承せず、われわれに損害を与えてゐる。次のことを付加しておかぬならない。
水沢は同盟と上分、名簿等を不当に隠し、北野は大衆参加と一算計分の半額約五万円を燃

(大衆)

〈秋本(望月)さまの自己批判書〉

一 私 は、共産主義者同盟七回大会をボイコットし、のみならずボイコットの組織的に指導し、その結果同盟内に重大な混乱をひきおこしたことを自己批判し、中央委員、政治委員として、同盟のあらゆる制裁に服しなければならぬことを認めます。
二 私 は、共産主義者同盟七回大会の成立とそこで決定されたすべての決議事項を同盟の最高議決機関としての大衆決定とみなします。
三 私 は、一にボイコットの決定により、東京反成世話人を辞退します。
右三項について明確に全同盟員の前に自己批判し、今後の自己の革命的活動の爲めに明らかになります。

共産主義者同盟政治局員

一九六八、三、三〇

望月 彰 押印

〈望月世話人の辞任届〉

辞任届

私は東京反成世話人を辞任します。

一九六八、三、三〇

望月 彰 押印

東京反成

備している。

これら緊急の諸事以上の問題は、政治的組織的責任の自己批判を向う問題とは別個に、三月三十一日午前十時までに返答、引きつぎを、秋本同志を通じて文書申し入れしたにも拘らず、なされてはいない。

③ 秋本同志の自己批判について。

秋本同志は明らかに大会翌日までは確実に水沢一歩と同一行動をとった。われわれは彼が従来東京反戦世話人の地位にあって、ことに關し、現実の緊急の階級斗争の只中で彼の大会二日目の任務の任を放棄と大会ホイコソト及びその組織者へ「田政治局長」としての自己批判がなされれば階級斗争の権利停止を介してらして、彼の一切の同盟に敵対する活動の粉砕せぬはなうなかつた。

したがって、東京反戦世話人代表には同志羽山を推薦すること組織内承認し、25日時点ですべてに東京反戦の世話人会にて望月(秋本)世話人ヒメンを過渡的処置として解任させた。しかもに秋本(望月)は厚顔にもその世話人会に現われ、同盟に對して自己批判がなされ、世話人にしなうらうとし、同盟と同盟の東京反戦における対立に敵対しようとし

討論に至り、現下の状況に對しその見解を明らかにすると共に、我々と共に「採決反対派連合」に三月二四日所屬し、現在もなお所屬している諸細胞にこの検討をよびなけるものである。革命的情勢は天の林に決断させまゝてくる。

二、先ず次大回同盟大会は資格審査(大会の参加資格は、革命党建設にとりて承認の原則を原則的に有しなければならぬ)に對して、又て回大会に於ける「全て認める」形は非難されるべきであるが、規約の不明朗は否めない。今行、党建設との同盟を檢討するべきだろう。(一)に同盟をもちながら同盟会され二日目の大会を終了し、同盟の決議として、その決議と指導部をもち、認めることを、キリと認めなければならぬ。その意味で同盟大会を形成する諸条件は満たされているのであり、これを拒否することは許されない。

我々は同盟所屬細胞として、様々な批判を肯定を行つたとしても、我々が同盟大会決定の内容と路線について検討する任務を遂行し、最初

たのである。

た。かゝる公然たる敵対を即刻粉砕することは同盟と、のみならず秋本自身の今後の革命活動にとつて絶対必要なことであつた。だから、われわれは、小マル的批判者のくくり言を一蹴し、ためにする党派的村社の醜態な陰謀、溜カソへ(社会同福口)を同盟とせよ、望月の世話人会出席を即時やめさせ、同盟に對する自己批判の提出及び東京反戦世話人の辞任を求めたのである。最近限の自己批判審査及び辞任届が提出された。へ前ページの全文を参照し、また、し

④ ホイコソトを自己批判し、同盟に存続する決意を再承認し、統一された敵対に復歸した。また、しつゝある諸同志、細胞についで。

(a) 東京細胞の自己批判的意見書の提出と同盟に留まることが關する確認。(全文を参照)

「向う認めるべきなの」

現下の現状に對する我々の態度
同志連合主義同盟黨を建設するべき

一、我々共産主義者同盟黨を建設するべきは、同盟次大回大会の派系別論の体面を以て不承の

に果さぬはなうなりのである。

政治路線上の対立、対立は如何なる形を激化しようとも、基本的には同志的冷静な立ち、相対化されるべきものである。この点に於て、大会二日目における採決反対派に於けるこの大会欠席は、大会といつ同盟の協議決議機関を通じて、自らの党綱を貫徹すべき任務を放棄し、同盟に對する責任を放棄するものとして如何なる責任を遂行すべきかを問はう。

我々慶応義塾大回細胞も、大会二日目に欠席し、一歩も退くことなく自らの政治的見解を貫徹すべき義務を果さなかつた。この同盟細胞の任務に對する重大な背反である。このことを認め、むしろ、この誤りを認めることを、キリと表明した。そして前よりある現時点ではこの誤りを認めることが認められるべきなのである。

三、我々は、同盟関係の一環として大会フラクションに参入し、この指導部が基礎的任務を遂げて大会参加の道を閉鎖した。我々が基本的には大会に絶対参加すべきであり、又、同盟の分裂

という事能は現時臭で何らの有効性をもちえな
いという見解を内包しつつも、採決反対欠場派
からの脱却、独自参加に踏みきれなかつたのは、
一つには同盟に於ける活動の指針を与えるもの
として、旧黎明派の指導部の内容を認めていた
ことにあり、一つにはその指導部を通してのみ
もたらされる状況判断の基準が、許されるべき
ではないと判断される組織的暴力対抗を我々自
身に迫るものとして存在したことに在るにせう。
我々は多くの同志と同じくむしろ分裂的事態を
相対的に回避する方向をとりたいならば、欠場
するということを選定せねばならない状況に陥
らされたのである。

我々は大会欠場後も当然分裂を回避し、断固
として同盟内での政治路線の主張と斗争を続け
ることを主張し、指導部に強く反対しを存受け
入れられなかつた。こゝに我々は、採決反対の
基礎になつたところの政治路線を断乎として堅
持しつつも、その路線の推進の目的にも分裂は
全く無意味であること、主張して一九六六年九

日統一再建されば世界革命の唯一の担い手、
共産主義者同盟の折属細胞としての枚別と義
務を維持し発展させることとを決定する。

(四、五、六項に關して、この「口述」では長
大に存するという理由のみで省略、近日中に他
の文書とともに全文発表する)

分裂の目的化の路線を拒否し、同盟に復帰
しや八回大会への展望に向かつて今から前進
を開始しよう。

一九六六年三月二十九日

共産主義者同盟慶応義塾大学細胞

以上の自己批判的意見書を受理し、慶大細
胞や同盟の組織として存続し、活動していく
ことを確認する。但し、文中、資格審査に關
する異議は新契の経過に照らして全く認めら
れないことを明確にした。

なお、三戸回春からも同盟に存続し斗いぬ
く固い決意が文書で表明された。(全文近日中
に発表)。飛鳥同志の三日二四日付自己批判
に關して、検討のうえ態度を明らかにする。